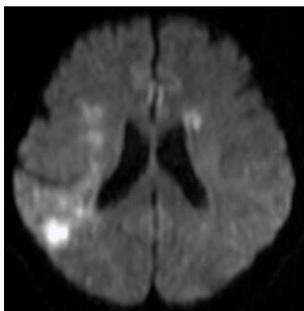


## 脳卒中外来のご案内

- 「脳卒中」とは、脳の血管が詰まっておこる「脳梗塞」、破れておこる「脳出血」と「くも膜下出血」という病気の総称です。日本人の死因の第3～4位を占めており、回復しても脱力（麻痺）、しびれ、呂律や嚥下の障害などの後遺症により介護が必要となる状態になることもあり、その発症予防、および再発予防は、非常に重要です。
- ✓ 脳梗塞は、動脈硬化によって首や脳の血管が細くなっておこるもの、心臓の病気が原因で心臓の中にできた血栓が脳の血管につまっておこるもの、など、様々な病気のタイプ（病型といいます）があり、発症および再発予防治療は病型によって異なります。そのため、脳だけでなく血管や心臓など様々な検査により原因をつきとめ、適切な治療（薬物療法、カテーテル治療、手術治療）を受けて頂く必要があります。なかには検査をしても原因がわからない脳梗塞もありますが、最近、原因不明の脳梗塞に対する新たな検査法や治療法も行えるようになっていきます。



脳梗塞の頭部 MRI

左が脳の断面、右が脳の血管の画像です。左の写真で白く見えているのが脳梗塞で、右の写真の矢印部分で血管が詰まったことで起こりました。動脈硬化が原因の脳梗塞です。

- ✓ 脳出血は、多くは長年の高血圧により負担を受けた脳深部の細い動脈（穿通枝といいます）が破れて生じます。再発予防には血圧の管理が重要ですが、高血圧のない方や若年の方では、脳動静脈奇形、脳硬膜動静脈瘻、もやもや病などが原因となることもあり、精密検査が必要な場合があります。



脳出血の頭部単純 CT

白く見える箇所（矢印）が出血です。

- ✓ くも膜下出血は、多くは脳動脈瘤の破裂により生じる脳の表面の出血で、突然の激しい

頭痛で発症し、一度発症すると現在でも約 1/3の方が亡くなり、約 1/3の方は後遺症を残す、重篤な病気です。脳動脈瘤自体は決して稀ではなく、多くは何の症状もなく破裂もしませんが、破裂の危険性がある脳動脈瘤と判断された場合には、カテーテル治療や手術治療による破裂予防処置が必要になります。



くも膜下出血の頭部単純 CT (左)  
脳の溝にそって出血 (矢印) を認めます。  
脳血管造影 (右)  
カテーテル検査で脳動脈瘤 (矢印) を認め、  
くも膜下出血の原因と診断されます。

- 脳卒中外来では、脳卒中の発症予防・再発予防に関連した診療を行います。対象となる病気は、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、頸動脈狭窄症、未破裂脳動脈瘤のほか、もやもや病、脳動静脈奇形、脳硬膜動静脈瘻、脊髄血管病変など、すべての脳・脊髄血管障害です。当院では困難な検査や治療が必要な場合には、筑波大学附属病院脳卒中科と密接に連携して、診療にあたります。

以下のような方は、ぜひ当外来を受診ください。

- ✓ 脳あるいは首の血管が細いといわれた
- ✓ 原因不明の脳梗塞といわれた
- ✓ 脳動脈瘤があるといわれた